

埼玉県生産性本部 2017年新春労使懇談会開催

生産性新聞・2月15日号4面より再掲・一部加筆

埼玉県生産性本部は1月24日、さいたま市のソニックシティビルで「新春労使懇談会」を開催（＝写真）した。



●山田吉隆・埼玉県生産性本部会長あいさつ

冒頭、山田吉隆・埼玉県生産性本部会長（川口化学工業取締役社長）があいさつし、「世界情勢が混とんとし、先行き不透明といわれるが、人間が考え、判断する基本的なことは歴史が始まって以来変わっておらず、道具や技術が変わったに過ぎない。生産性運動は、労使学識の話し合いが基本であり、これをもとに考え、判断して行動方針を決め、実行に移していくことが大切になる」と強調した。

●山野隆子・埼玉県産業労働部勤労者福祉課長あいさつ

続いて、来賓あいさつが行われた。山野隆子・埼玉県産業労働部勤労者福祉課長は、「埼玉県生産性本部では、セミナーやフォーラムなどの様々な活動を通じて労使が連携し、県経済の

発展と福祉の向上に努められている。今、『働き方改革』が注目されているが、企業、そして働く人の意識を変えていくことやこれまでの働き方を見直すことがたいへん重要になっている。女性の活躍推進が叫ばれる中で、女性にとって働きやすい環境が整ってきているが、社会の意識を変えるまでに 20 年ぐらいの長い期間がかかっている。働き方改革も同様に、すぐに変えることは難しいものと思う。労働環境をさらに整えていくために、今後も皆様のご協力、ご支援をお願いしたい」と述べた。

●佐藤道明・連合埼玉事務局長あいさつ

佐藤道明・連合埼玉事務局長は、「フォーラムやセミナーなど様々な場を通じて、埼玉県生産性本部と連合埼玉の連携が密になってきていることを報告したい。春闘の時期を迎えているが、『官製春闘』と言われて 4 年目となる。労使が汗をかきながら真摯な協議を展開しており、この表現はいかななものかと思う。ただ、政労使が認識を共有することは重要であり、特にデフレ脱却のためには継続的な賃上げが必要になる。今年の春闘で連合は『底上げ春闘』を掲げ、物価上昇のない中で、大手だけでなく中小を含めた賃上げを実現し、また、大手と中小の格差の是正が図られた。しかし、個人消費をけん引するまでの賃上げ水準には達していないのが現状であり、デフレ脱却に向けて昨年以上の賃上げが必要になっている」と語った。

＝ 記念講演 ＝

●秋満吉彦・NHKエデュケーショナルシニアプロデューサー講演（概要）

「名著に学ぶ【組織】と【自分】のマネジメント」をテーマに記念講演を行った秋満吉彦・NHKエデュケーショナルシニアプロデューサーは、①受け身こそ最強の主体性②異質なものをつなぐ③「寄り道」の大切さ――の三点をキーワードに、リー

ダーに求められる心構えやサラリーマン人生の送り方などについて解説した。

この中で、「受け身こそ最強の主体性」については、リーダーは自らの考えに固執するのではなく、周囲の考えや意見を受け入れるような「受け身」の心構えを持つことで、無限の力になっていくことを強調した。

また、「異質なものをつなぐ」については、真っ白なものは一般的に力に欠け、「混じり」があるからこそ強いものになること、また、異なるもののぶつかり合いが新しいものを生むことを指摘した。



秋満講師

※生産性出版より 2017年3月中旬発売

秋満吉彦著 ……テレビマン「挫折」から「成長」への50冊

『仕事と人生に活かす「名著力」第1部 現状打破編』

『仕事と人生に活かす「名著力」第2部 飛躍編』

四六判・並製・縦組み・208頁予定、定価（本体¥1500+税）